

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

162 号

NPO 法人 出発のなかまの会

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可
 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8 の日 発行

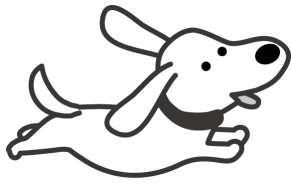


謹んで
 新春の
 お慶び
 申し上げます

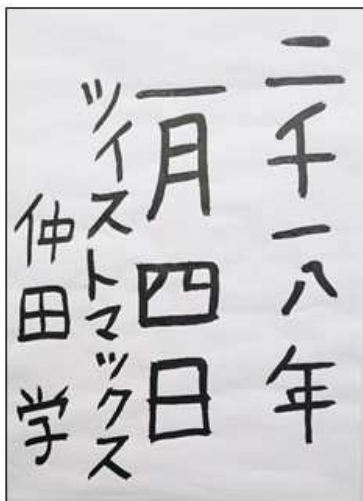
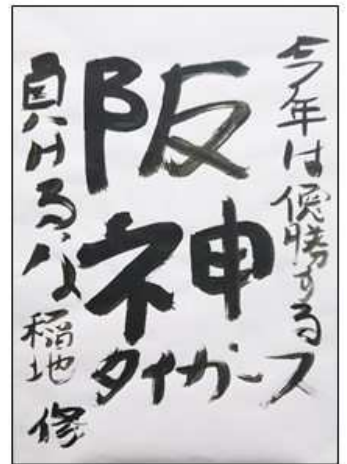
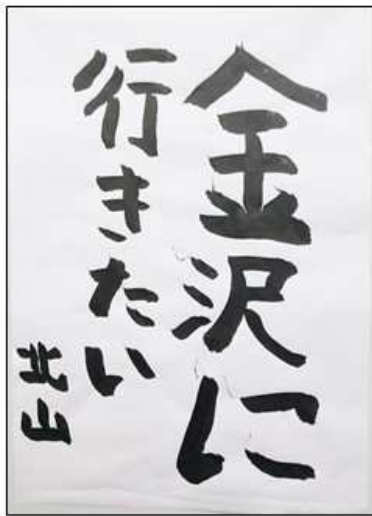
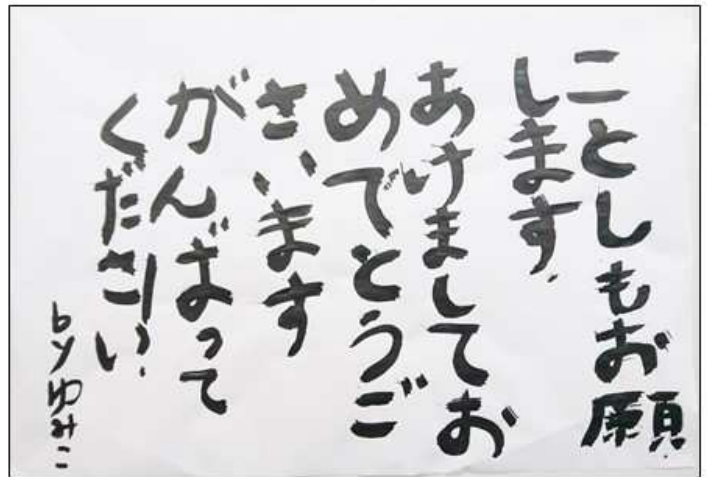
2018

目次

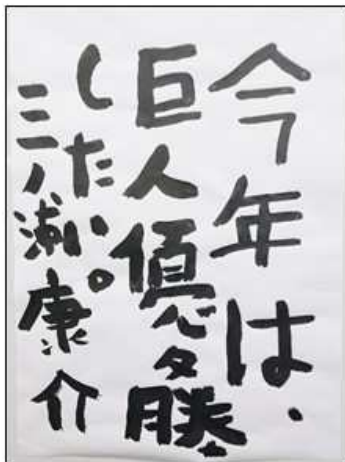
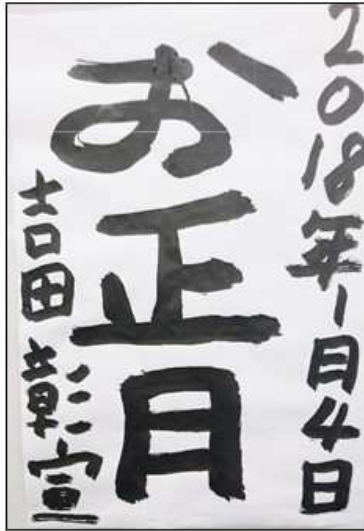
| | |
|---|----|
| ワンダフルな ^{ねん} 1年に! | 2 |
| ともに ^{あゆ} 歩もう | 4 |
| サービスをよくする ^{かいぎ} 会議 ^{かいめ} 1回目を ^お 終えて | 5 |
| グループホームの ^{だいきほか} 大規模化を ^{ゆる} 許さない! | 6 |
| スタッフ ^{こそだ} 子育て ^{にっき} 日記 | 7 |
| どんどん ^{しんぶん} 新聞より | 8 |
| ^{けいぞく} 継続は、 ^{ちから} なかまの ^{きすな} 力で ^な 絆になる?! | 10 |
| ^{ちいき} 「 ^{しょうがっこう} 地域の ^い 小学校に行きたい」という ^あ 当たり ^{まえ} 前を ^{じつげん} 実現したい | 11 |
| ^{わたし} 私たちは ^{ちいき} 地域で ^く 暮らしているんだ | 13 |
| ^{かつどう} 活動のあと | 14 |



ワンダフルな1年に!



ことし ほうふ が ぞ
～ 今年の抱負!?! を書き初めにしました～



ともに歩もう

2018 年が始まりました。新しい年には希望を詰め込んで出発したいものです。

障害福祉サービスは、この 4 月から新しい報酬体系に変わります（7 ページ参照）。厚生労働省の議論の経過は確認してきたつもりでしたが、12 月になって、グループホームに新しい類型が加わる計画が明らかになりました。その名は『日中サービス支援型』。1 ユニットに 10 人の障害者が居住するグループホームが最大 2 ユニット、ショートステイも併設され、最大 25 人が暮らすグループホーム、しかも、日中どこにも出かけられない人を想定しての単価設定をしているようです。これでは、既存の入所施設よりもさらに閉じこめ型の施設になる危険性が高いにもかかわらず、名称は“グループホーム”なのです。私たちがこの 20 数年進めてきた“地域での当たり前の暮らし”が根底から覆されようとしています。“地域で暮らす”とはどういうことなのか、まだまだ声高に叫ばないといけない状態なのだと思います。

去年は、何度か“どんどん”（＝当事者活動グループ）のメンバーの講演に同行させていただきました。それぞれのメンバーが写真を見ながら、グループホームの暮らしや一人暮らしの様子を紹介してくれました。言葉で表現することが難しいメンバーも、一緒に写真を見たり、得意のパフォーマンスを披露する姿を見てもらい、生活の様子が伝わるように工夫しています。講演は大学、障害者を支援するグループ、障害のある子をもつ親御さんの会などいろいろな場所でおこなったのですが、どこへ行っても“重度”の障害当事者の方々が明るく、生き生きと発表される姿に驚かれることが多いのです。障害者の生活は、まだまだマイナスイメージの強いもののようです。障害があっても、一人の人間なのです。幾度も悩み、迷い、失敗しながら、“自分らしく”生きようとする様は、“健常者”と言われる人たちと変わらないのです。

『日中サービス支援型』グループホームの案が出た時、当事者たちは「そんなん（入所）施設やん！」「あんたら（＝制度設計をした“健常者”）が住んでみたらいいねん！」と怒りました。“障害者”“高齢者”“子ども”“外国人”“女性”など、カテゴリライズしていくと他人事になってしまうのです。同じ一市民として、どういう社会を目指し、行動していくのかが問われています。“誰も排除されない社会”をつくることに望みを託し、当事者たちの力強い後押しを受けながら、“同志”として共に歩んでいきたいと思ひます。

（ミサオ・K）

サービスをよくする会議 1 回目を終えて

「とんぼまるでサービスをよくする会議をします」と聞いたときは、「サービスをよくする会議って、どんなことするのだろう？」から始まりました。パワーアップ会議・ケア会議でサービスをよくする会議について取り上げたことで、何となく理解できましたが、メンバーの本当の意志をどのように聞き出せばいいんだろう？支援者の言葉にメンバーが誘導されるのではないかなど自分ができないことを前提にして、たくさんの否定的なことを考えるようになりました。

いざ、会議が始まると、普段希望を言わないメンバーが「肉しゅうまい食べたい」「とんかつたべたい」など、たくさんの希望を紙に書いていました。正直驚きました。その時、日常生活でメンバーは希望や意志を言わないのではなく、メンバーが希望や意志を言える雰囲気になかったり、自分にメンバーの気持ちをもっと知ろうとする姿勢が不足していることに気づかされました。普段の生活の中で、メンバーの希望や意志、不満を言葉でない表現方法でたくさん発信しているのに、自分が上手くキャッチできてないと感じました。また、会議の中で、自分は“普通”と感じてしまっていたこと（麻痺してる部分も）でも、たくさんのメンバー・支援者の“目”からみると、「あっ」と思わされることが多くありました。例えば、「居室に楽しみ・趣味がない」、「テレビにほこりがかぶっている」、「衣装ケースが割れている」、「とんぼまるは、ホテルみたい」という意見でした。「とんぼまるは、ホテルみたい」は、メンバーができることでも、メンバーに言われたことを支援者がそのまましてしまうことで、メンバーが生活感を持っていないというご指摘でした。メンバーを主人公とした生活であるはずなのに、支援者の時間的都合や価値観などでメンバーの生活や行動が決められていないか？メンバーの失敗する経験・人間関係で悩む経験・新しいことにチャレンジする経験など、生きていく上で必要なたくさんの経験を支援者が奪っていないか？メンバーに役割・やりがいはあるか？支援者の枠の中にメンバーを落とし込んでいるのではないかなど会議を終えていろいろと考えさせられました。

サービスをよくする会議は 4 回で終わりますが、決してそれで“おしまい”にせず、息の長いテーマとして取り組み、少しでも、メンバーそれぞれの生活の質・人生の質の向上につなげたいと思います。

(ユウジ・M)

グループホームの大規模化を許さない！

消防法の改正によるスプリンクラー設置の義務化や、建築基準法改正にともなう防火設備の報告の義務化など、ここ数年、グループホームは制度の変化に振り回されています。さらに今年度は、来年度におこなわれる障害福祉サービスの報酬改定に向けて、厚労省の報酬改定チームで議論がなされています。この議論は春にさまざまな関連団体からのヒアリングを経て夏頃からおこなわれました。そしてようやく報酬改定の論点が出されました。グループホームに関する報告には新たに「重度対応型グループホーム」をつくと書かれていました。その内容は、ひとつの建物に、10人を1ユニットとしてそれを2ユニット、さらに5人までのショートステイ（短期入所）をおくことができるというものでした。最大で25人もの方が寝泊まりしている建物をグループホームとして認めることは到底できません。25人の共同生活はあたりまえの暮らしではありません。他の者との平等を謳う障害者権利条約に反するばかりか、入所施設からの地域移行を進めてきた障害福祉の基本方針にも逆行します。また、生活の場と日中活動先が同一敷地内で完結するような状態は施設処遇と変わりありません。暮らしの場であるグループホームの基本的な考え方を変更するような施策は必要ありません。

国が示した「重度障害者対応型グループホーム」は、私達がこれまで、重度障害者のごくあたりまえの暮らしのあり方を実現するために進めてきたグループホームの理念や有り様とはかけ離れています。グループホームは障害者の暮らしを支える制度として、施設での集団処遇から脱し、自分らしい暮らしをつくっていく場として重要な生活の場です。また、家を出てひとり暮らしをしようと考えている障害者にとって、家族以外の介護を利用しながら生活をつくっていくための生活経験を積む場所としても重要な役割を果たしています。そこで必要なのは小規模な暮らしの場での個別の対応です。重度障害者の暮らしは少人数で手厚い支援があってこそ、本人の希望に沿うことが可能です。大阪では現に小規模化を守りながらも、在宅・施設・病院からの地域移行に取り組み、重度障害者のグループホームを全国で最も多く作ってきました。大規模化しなくとも個別ヘルパー等を組み合わせることで、重度障害者グループホームの増設や地域移行を進めることは十分可能であることを実証しています。

大規模化した施設の中では、個別の対応は体制の合理化のもと縮小されます。それでは障害者の希望に沿ったきめ細かい支援を提供することができません。もし、報酬改定の論点で述べられていた「スケールメリット」が、より少ない従事者でより多くの障害者を支援す

ることを指しているならば、グループホームの施設化は止められません。そこで危惧するのは障害者虐待です。重度障害者の支援において効率化を図ろうとすれば、障害者の意向を無視することが増え、支援の質の低下にとどまらず、虐待に至るケースも出てくると思われ

ます。それほどまでにグループホームの大規模化は危険なものであると認識しています。相模原事件以降、地域住民の大きな「障害者施設」に対するまなざしは厳しく、小さなグループホームでさえ地域住民の反対運動にあいながら開設している状況です。大規模なグループホームの開設は現状に追い打ちをかけられると思われ

ます。私達は、小規模かつ個別のニーズに対応する暮らしの場としてのグループホームの重要性和その在り方について粘り強く訴え続けたいと思います。

(カオリ・I)

スタッフ子育て日記



我が家の娘も6歳。春からは、いよいよ小学校入学です。ランドセルも購入して小学校生活を待ち望んでいます。そういえば6年前は育児休暇(2カ月)を取らせてもらいました。

「育児=育自」なんて言うけど、本当に自分自身が子育てを通していろいろ経験して成長させてもらっています。子どもと遊ぶ時間が「ない」ではなく「作る!」と改めてからは、仕事の取り組み方も変わり効率よく考えるようになったつもりです。相方さんからしたら、それが当たり前で必死に仕事と母を頑張っているの、父はまだまだ『甘さ』だらけのようですが…。

なので(たまに?)父が参加することで娘に喜んでもらえることは結構あります。「子育ての美味しいところばかり取って!」と、また相方さんには怒られるかもしれませんが、娘が父と遊んでくれることも期間限定のはず、タイムリミットは迫っています。だからこそ今しかできないことは思いっきり楽しもうと思っています。

最近、娘は「夜勤」という言葉を覚えたようです。「夜勤=父帰ってこない=遊べない=不満」なようで「今日は夜勤」と伝えると怒ります。ちなみに相方さんは「今日は夜勤」と伝えると喜びます。ただ、父親=スマホのゲームができるっていう部分もあるようなので危機感も!

まだまだ父親休業中の身ですが、いつまでも夜勤の日は娘に怒ってもらえるようにスマホ以上の魅力を身に付けていきたいものです。

(ミノル・T)

どんどん新聞 No.160 から抜粋しています

どんどん新聞 No.160



発行日 2017 年 12 月 4 日
発行所 自立生活センター・どんどん
大阪府生野区田島 1-10-30
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



ふくしまベンキョウカイ 福島勉強会をしました。

日時: 2017 年 7 月 19 日 (水) 場所: すきっぷ会議室

◆ M さん、ようこそ大阪へ

福島県の NPO 法人 あいえるの会 から M さんが研修で大阪に来ました。あいえるの会にはたいむ I L という組織があり色々なことを自分達で決めます。医療的ケアが必要なメンバーさんも参加しています。たいむ I L 内にコーヒーショップも立ち上げ、自分達で選んだ豆や紅茶も販売しています。土曜日は自分の周囲で起きたことを語り合います。勉強会は多くの方が参加しました。M さんは驚きながら「たくさんの人に集まってくれてありがとうございます」と話しました。2011 年 3 月 11 日の大震災では断水が続き大変だったと教えてくださいました。M さんには言語障害があり、五十音表を使って、一文字ずつ言葉を話されます。どんどんメンバーからのいろいろな質問にも、一つずつ丁寧に答えてくれました。

N さんは趣味の鉄道模型の話をしました。M さんの趣味は音楽で GLAY の大ファンです。昔、手紙を書いたら一緒に写真をとってくれたことを楽しそうに熱く語りました。福島に帰ったら自分へのごほうびに初回限定アルバムを買うと話してくれました。M さんもメンバーに「皆さんのヘルパー時間はどのくらいですか？」と質問しました。K さんが 467 時間と伝えると「すごい!」と驚かれました。M さんは、居宅介護が 20 時間しかなく大変とのことでした。大阪と福島の違いから趣味までたっぷり学べた勉強会でした。

M さん本当にありがとうございました。

どんどん新聞 No.160 から抜粋しています

どんどん新聞 No.160



発行日 2017 年 12 月 4 日
発行者 自立生活センター・どんどん
大阪府生野区田島 1-10-30
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



対府交渉に参加しました。

日時:2017年7月31日(月)場所:中央区民センター

◆いかにげんにしろ!

今年も対府交渉に参加しました。どんどんプロジェクト会議で決めた、「勉強会を 2 回する」という目標も達成です。怒らないといけないことが多く、気合いが入ります。障害者施策全般に参加した沼田さんは「研修をしてください!」と訴えました。行動援護でメンバーと外出するとき、ヘルパーは新たに研修を受けないといけないことになりました。ところが、研修の回数が少なくヘルパーが不足しています。必死の訴えでしたが時間が足りず伝わったかわかりません。K・S さんはホテルやカラオケでヘルパーが入口までしかダメ!と言われたことで怒りました。「しゃべれない人はどうしたらいいねん!」と訴えました。

グループホームへの個別ヘルパー派遣は、経過措置で 2018 年 3 月までになっています。T さんは個別ヘルパーがなくなったら困ることをなんと 20 個も読み上げました。

K・K さんは、K・S さんと掛け合いです。「施設は反対!グループホームを増やせ!」と訴えます。

K・Y さんも医療的ケアを必要とする人の研修や育成に力を入れろ!とアピールです。一人一人の怒りが伝わったかどうかは、わかりません。

しかし、怒り続けないと地域生活は崩壊します。私達はこれからも闘います。



継続は、なかまの力で絆になる？！

ピープルファースト大会の前日午後9時30分ごろ「Tさん39度の発熱のため、広島には行けません」と1通のメールが私のスマホに届きました。「キャンセル？カフェは？」と段取りのことで、私の頭の中はいっぱいになりました。翌朝Yさんに「Tさんが行けなくなったので、カフェをやってもらえないかな？」と相談すると、「する」と二つ返事でピンチヒッターを引き受けてくれました。その瞬間「カフェをやろう！」と、私も腹をくくりました。

今回の会場は広島国際会議場、平和記念公園の中にあります。多くの観光客の中を颯爽と走る数台の電動車いすを見た時、背筋がピンと伸びるのを感じました。

開会式が始まると同時にカフェの準備に取り掛かります。

Yさんは疲れた表情一つ見せず、淡々と時にニコニコとコーヒー豆を挽き続けています。休憩時間には最高30人くらいの列ができました。コーヒーを淹れるのに時間がかかり、申し訳ない気持ちでお待たせしていると、「ここまで来たら、タカオカフェを飲まなくちゃ」と並んでくださった方がYさん



んに声を掛けてくれました。Yさんは少し困った顔をしながら「はい」と答えていました。Tさんが来られなかった事情をお話しすると「じゃ、美味しいの淹れてね」とYさんを励ましてくれました。3時間で約130杯のコーヒーを提供することが出来ました。ピープルファースト大会でカフェをはじめて数年が経ちます。毎年Tさんが自前のカフェセットを持ち込み、美味しいコーヒーを仲間に飲んでもらおうと続けてこられたから、楽しみにして下さるファンが全国各地にいるんだと、ぞわーとしました。気がつくと「Tさんのおもいは、Yさんが届けてくれましたよ」と心の中でつぶやいていました。

主体的に参加するとは、本人の持つ表現方法でその人らしい活動が出来ること、そして継続していくことが何より大切なんだと感じました。また出来ない時は、そのおもいを仲間に託すことも継続する方法なんだと、今回は教えていただきました。全国のファンのために、次回開催地の奈良でTさんのマスター復活を見せてくださいね。



(アツコ・S)

「地域の小学校に行きたい」というあたり前を実現したい

12月21日に「みらくる学習会 テーマ：小学校進学に向けて」を開催しました。ゲストスピーカーとして、地域の小学校、高校に通っている子どもの保護者の方々、講師にインクルーシブ教育研究所のHさんに来ていただきました。

ゲストスピーカーのTさんの子ども・A君は医療的なケアが必要です。地域の小学校に通うか、特別支援学校に通うか迷い、特別支援学校を見学してとても静かだったことで、“にぎやかなところが好きなA君には地域の小学校がいい”と決められたそうです。その後、「地域の小学校に通いたい」と学校に何度も話し合いに行ったけれど、校長先生の受け入れは悪く「はい」と言ってくれなかったそうです。それでも、現場の先生方からは“おいで、おいで”という雰囲気を感じたので“いけるな”と思い、話し合いを進められたそうです。

入学してから校長先生も教頭先生も代わり、新しい教頭先生が必要な物をどんどん準備してくれたこと、現場の先生方が熱心に対応してくれること、母がしんどくて子どもが元気な時に家まで迎えに来てくれたこと、「送迎は自分の義務だと感じていたけれど、しんどい時は助けてくれることがわかって気持ちが楽になった。」「これは支援学校ではない（してもらえない）やろうなと思った」と、その時の気持ちも話してくださいました。今ではエアコンが完備されたことで教室にいる時間が増え、A君が泣くとクラスのみんなで名前を呼んでくれるそうです。発表会ではどんなふうになれば一緒に発表できるかをクラスの子もたちで考え、言葉では表現できないA君のために吹き出しを作ってくれたり工夫してくれるそうです。

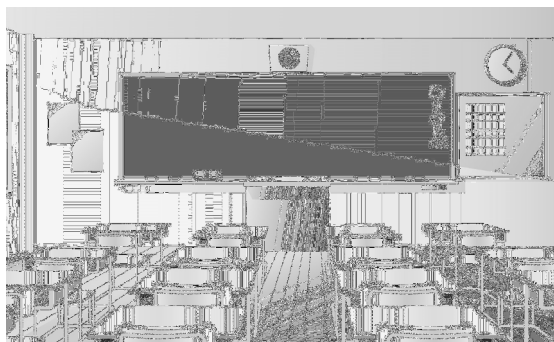
ゲストスピーカー2人目のOさんには、双子で全盲の子ども・K君、Y君がいます。Oさんは子どもたちが家に友達を呼んで遊んだ時にはお菓子を出し、必ず連絡先を書き込んだ手紙を渡していたそうです。そこには、“いろんなお母さんとつながりたい、うちの子と遊んでいることを知ってほしい”という思いがあったそうです。小学校で仲の良い友達ができて校庭キャンプに参加した次の日、Y君は家に帰ると「朝焼けって、めっちゃきれいやな。」と言ったそうです。Oさんが「目見えへんのになんでわかったん？」と聞くと「みんながきれいってめっちゃ言うてた。」と言ったそうです。それを聞いて、Oさんは“みんなの目を通して感じることもできたんやな。また、目の見えないY君のこともその場に連れて行ってくれた友達がいてくれたことが良かった”と思ったそうです。でも、高校受験のための学校見学では「障害のある子の受験は認めない」と言われたそうです。

くん くん ちいき こうこう かよ きち
 K君、Y君は“地域の高校に通いたい”と気持ちがブレなかったそうですが、Oさんは「つ
 らかった」と振り返って話してくださいました。

さんかしゃ なか じっさい しょうがっこうにゆうがく はなし がっこう いるようてき ひつよう こ
 参加者の中には実際に小学校入学のために話をして、学校から「医療的なケアの必要な子
 は受け入れられません」と言われた方がいました。大阪府役所のインクルーシブ教育推進担当
 そうだん じじょう せつめい にゆうがく がっこう しょう
 に相談し、事情を説明すると「入学できないなんてことはない。学校に指導しておきます」
 い
 と言われたそうです。その後すぐに学校から連絡があり、謝罪され「入学できないことはい
 ないです」と言われたそうですが、不安は残ります。

こうし の Hさんは視野を広げて話をしてくださいました。ある車いすの方が電車に乗車す
 る際、スロープを係員が用意してくれるけれど、早く行った時も最後でした。「どうしてい
 つも最後なんですか？」と聞くと、後日駅長に「係員に言っておきましたから」と言われ、対応
 を変えてくれたという話です。Hさんは「駅員は障害者の問題として考えてはいないだろう。
 『いつも最後だったと思っていたんだな』とか、『どうして言えなかったんだろう』とは考え
 ず、個別対応で終わっているんじゃないか。歴史的な障害者の問題であるという意識も必要な
 のではないか」と話してくださいました。係員も駅長も単なるクレーム対応をただけにな
 っていたのではないかとということです。障害者が後回しになっていた現状について振り返り、
 しょうがいしゃ たいおう かんが かつ か しょうがい
 障害者への対応について考え方を考えたということではないのです。障害があるというだ
 けで、なぜ対応が変わるのでしょうか。そこには人々の中に障害者への偏見があるのではな
 いでしょうか。Hさんは「障害のある人を“できない人”“わからない人”“やっかいな人”“手
 のかかる人”と周りが思っているんじゃないか。できないこともあるけど、一人の人間なんだ
 ということなんです」「『共に生きる社会をつくろう』そのためには見方を変えられないかなと、
 じぶん自身も含めて思っている」という話をしてくださいました。

できないこと、わからないこともあるのはみんなも同じなのに、障害のある人に対してだけ



そんなふうに見るのはなぜなのか。落ち着きのない子は
 “じっとできない子”と思われるかもしれませんが、でも、
 ねむ 眠れていない、落ち着ける状況にないなど、その子な
 りの理由が必ずそこにはあります。自分で気持ちをう
 まく表現できない子は、そこに理由があるということ
 に周りが気づこうとしなければ、“じっとできない子”

のままになってしまうのです。

障害者権利条約の第 1 条に「障害があっても一人の人間である」と書かれてあります。

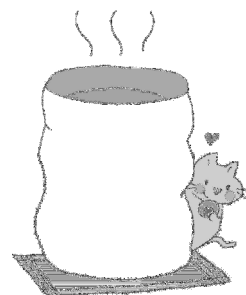
できないこともあるけど、排除するのではなく、一緒にできるようにするにはどうすればいいのか、社会の中で、社会全体で考える必要があるように思います。

残念なことですが、「地域の学校に通いたい」、この当たり前のことがまだまだ難しいのが現状です。一方で特別な教育を求めて、特別支援学校に通う子どもの数は増え続けています。地域の学校では受け入れが悪かったり、保育園や幼稚園からの引継ぎが大変だったりして特別支援学校を選ぶ方も少なくないようです。個別の進学の悩みは障害者・児の教育、社会の問題であると改めて考えさせられました。今回の学習会では参加者の方々と、このように進学の悩みが社会の問題であるという問題意識の共有ができたことは大きかったと感じています。子どもにとって何が大事か、何が必要なのかを、支援する私たちも一緒に考え、必要であれば学校に社会に訴えなければならぬのだと感じています。「共に学び、共に生きる社会」の実現のために何ができるのか考え、取り組んでいきたいと思っております。

(マサミ・W)

私たちは地域で暮らしているんだ

グループホーム桃栗館の K さんは、たまにふらっ〜と、どこかに立ち寄ることがあります。その時も喉が渴いていたのか、何か気になったのかはわかりませんが…、とある事業所に立ち寄ってきたそうです。K さんの人柄もあり、そこの方とお茶をして繋がりをもち帰ってきました。



別の日、今度は自分たちの仲間と一緒に高齢者のデイサービス事業所との交流イベントに参加されました。そこでは、一人の利用者の女性と親しく話をしていました。話によると口説いていたような感じにもみえたそうです。女性に優しい K さんの人柄が想像つく場面でもありました。その交流会の別の場面をとった写真で「地域生活日記」を作りました。その写真は仲間とストッキングゲームをしている様子で、私は思わず笑いが出ました。なんだか、ほっこりした気分になり、同時にそんな繋がりを作れるメンバーさんの力は凄いなと改めて感じる出来事でした。

(ミホ・A)

活動のあと

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 9/1 グループホームスタッフ全体会議/生野子育て社会化研究会 | 11/9 内部研修(人権研修①)/どんどん学習会(対市交渉①) |
| 9/2 内部研修(発達障害勉強会) | ボランティアレビュー講座(生野会館) |
| 9/3 松野農園文化交流祭 2017(松野農園) | 11/10 内部研修(人権研修②) |
| 9/5 ひとり暮らし支援を考える会/作業所スタッフ勉強会 | 11/11 J-pal スタッフ研修会講師(どんどん)/みらくるランチ会/サラダボウル |
| 9/6 執行委員会/消防設備等法定点検① | プログラム(松野農園)/全国の集い in Osaka 2018 実行委員会 |
| 9/7 消防設備等法定点検②/焼津キャンプ 2017 報告会 | 11/12 内部研修(職員パワーアップ会議)/生野南連合防災訓練 |
| 9/9 みらくるランチ会(松野農園)/松野農園交流会(松野農園) | 11/13 大阪市オールラウンド交渉① |
| 9/13 生野区グループホーム連絡会世話人会 | 11/13~26 実習受け入れ(四天王寺大学) |
| 生野区学童期の子ども支援連絡会役員会 | 11/15 生野区学童期の子ども支援連絡会勉強会 |
| 9/15 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん | 11/16 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ) |
| 研修受入れ(社会福祉法人イエス団)/宅老所あおぞら敬老の会(交流) | 11/17 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん |
| 9/16~9/19 北海道旅行 | 11/18 内部研修(人権研修③)/読書会(松野農園) |
| 9/19 内部研修(ワンポイント講座) | 11/19 みらくるクラブ【運動会】(舍利寺小学校) |
| 9/20 きらら・らいすケア会議/生野区学童期の子ども支援連絡会 | 11/20 内部研修(成年後見学習会) |
| 9/22 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会 | 11/21 和楽苦荘のサービスをよくする会議/生野区 NPO 連絡会役員会 |
| 9/23~24 Tさん名古屋旅行 | 11/22 理事会/地域共生型福祉サービス運営推進協議会(あおぞら) |
| 9/25 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 | 11/23 第8回東北⇄関西⇄九州ボジティブ生活文化交流祭出店 |
| 9/26 北海道旅行報告会/作業所ミーティング | 11/24 とんぼまる・桃栗館ケア会議/障大連運営委員会 |
| 障大連全体会 | 地域共生ケア生野推進委員会 |
| 9/27 みらくるクラブ【高取山キャンプ】振り返り会 | 11/25 サラダボウルプログラム(松野農園) |
| 生野 NPO 連絡会役員会 | 11/25~26 ビープルファースト大会 in 広島 |
| 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(アデランテ) | 11/26 生野子育て社会化研究会ワークショップ |
| 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(あおぞら) | 11/27 内部研修(ワンポイント講座) |
| 9/28 大阪市集団指導 | 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 |
| 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ) | 11/28 とんぼまるのサービスをよくする会議/作業所ミーティング |
| 9/29 出発通信発送 | 11/29 要保護児童対策地域協議会個別ケース会議/成年後見人相談会 |
| 9/30 どんどんプロジェクト会議/サラダボウルプログラム(松野農園) | 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(アデランテ) |
| 9/30~10/1 災害時避難宿泊体験 | 11/30 Eプロジェクト会議(どんどん) |
| 10/2 障大連行動援護勉強会 | 大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修① |
| 10/3 HIT 合同研究会 | 12/1 グループホームスタッフ全体会議 |
| 10/4 執行委員会 | 12/2 就職フェア&面談会(地域共生ケア生野推進委員会) |
| 10/6 グループホームスタッフ全体会議 | 12/3 節目の会(松野農園) |
| 10/8 内部研修(政治と福祉の勉強会) | 12/4~6 ゲゲゲ旅行 2017(鳥取) |
| 10/8~9 全国の集い八戸大会(NPO 法人在宅ケアを支える診療所・ | 12/7 執行委員会/サロン・居場所づくり交流会(松野農園) |
| 市民全国ネットワーク) | 内部研修(感染症予防研修①) |
| 10/10 災害時避難宿泊体験報告会 | 生野区学童期の子ども支援連絡会役員会 |
| 10/11 生野区グループホーム連絡会 | 内部研修(感染症予防研修②) |
| 生野区学童期の子ども支援連絡会役員会 | 12/8 みらくる中高生の会【みらくるジャンプ】(松野農園) |
| 10/12 Eプロジェクト会議(どんどん) | 奈良マラソン参加/内部研修(発達障害勉強会) |
| 10/13 防災担当委員会/作業所スタッフ勉強会 | 12/9 大阪市ファミリー・サポート交流会(松野農園) |
| 10/14 内部研修(発達障害勉強会)/サラダボウルプログラム(松野農園) | 大阪障害者自立セミナー2017 |
| みらくる中高生の会【みらくるジャンプ】(松野農園) | サラダボウルプログラム収穫祭(松野農園) |
| 10/17 どんどん学習会(ジャマイカ報告会) | 12/11 ビープルファースト大会 in 広島報告会 |
| 大阪市有償ボランティア団体連絡会(松野農園) | 共生型福祉サービスについて対市協議 |
| 10/18 不登校ひきこもりの支援連絡会 | ゲゲゲ旅行 2017 報告会 |
| 10/19 フラワーアレンジメント(松野農園) | 12/12 生野区グループホーム連絡会 |
| 10/20 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん | 12/13 大阪市オールラウンド交渉② |
| 10/23 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 | 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん |
| 10/24 どんどん学習会(対市交渉①)/作業所ミーティング | 12/15 あかるいみらい準備室講演(どんどん) |
| 10/25 生野区学童期の子ども支援連絡会 | 12/16 歌とピアノの音楽会(松野農園) |
| 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(アデランテ) | 12/17 みらくるクラブ【もちつき】(松野農園) |
| 生野区 NPO 連絡会学習会 | 12/19 生野区 NPO 連絡会役員会/防災委員会 |
| 10/25~27 東京ディズニーランド旅行 | 12/20 きらら・らいすケア会議/大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修② |
| 10/26 内部研修(ワンポイント講座) | 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ) |
| 10/27 和楽苦荘・かのんケア会議/障大連運営委員会 | 12/21 みらくる学習会/桃山学院大学講演(どんどん) |
| 生野南連合防災勉強会 | 12/22 障大連運営委員会 |
| 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ) | 地域共生ケア生野推進委員会役員会 |
| 10/28 サラダボウルプログラム(松野農園) | 12/25 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 |
| 10/30 執行委員会/通信委員会 | 12/26 内部研修(ワンポイント講座)/医療的ケア勉強会 |
| 11/4 内部研修(発達障害勉強会)/フェアトレード勉強会(松野農園) | 12/27 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(アデランテ) |
| 11/6 グループホームスタッフ全体会議 | 12/28 作業所もちつき |
| 11/7 内部研修(まちなか被災シュミレーション) | |
| 11/8 東京ディズニーランド旅行報告会/生野区グループホーム | |
| 連絡会世話人会/生野区学童期の子ども支援連絡会役員会 | |

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の日 発行 大阪府天王寺区真田山町二丁目一 東興ビル4階 頒価百円

へんしゅうこうき
編集後記
しんねんあ
新年明けましておめでとうございます。
2018年です。フィクションの世界では「I'll be back」で有名なアンドロイドが試作されたそうです。昨今の技術を考えたら実現可能かも??
今年はどうな事が起こるのか、楽しみでもあり恐ろしくもあり、です。(コウヘイ・O)

編集人
特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749
郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
ホームページ http://www.tabidati.jp/ 750部